

○佐渡旭・山口茂・工藤陽史
(熊本農研セ)

【目的】

キンギョソウ (*Antirrhinum majus* L.) は量的長日植物であり、アメリカで分類されたⅠ～Ⅳ型の4グループではそれぞれの順に日長反応が強くなる。海外では無摘心栽培で日長、光強度などの影響が検討されて、Ⅲ型品種を短日に栽培する際に長日処理が必要であるとされている (Corr・Laughner, 1998)。本研究では、'バタフライホワイトⅢ' (ペンステモン咲き, Ⅲ型) を用いて、冬期の摘心栽培における暗期中断の影響を検討した。

【材料及び方法】

試験は農産園芸研究所のガラス温室 (厚層多腐植質黒ボク土) で行った。供試品種は 'バタフライホワイトⅢ' (Ⅲ型) で、購入苗 (本葉4枚) を9月15日にガラス温室の幅90cmの地床に株間15cm×条間15cmの6条植えで定植した。摘心は本葉2枚目の上部で10月18日に行った。最低夜温は11月24日から2007年3月31日まで10℃に設定し、日中は15℃換気を行った。

試験区は自然日長区、暗期中断区の2区とした。暗期中断は白熱灯 (75W) による深夜4時間 (22:00~2:00) で、9月20日より行った。試験規模は1区42株とした。調査方法は小花4輪が開花した時点を開花日とし、2007年3月31日までに開花した全分枝を分枝基部から1節残して採花し、発生部位別に切り花調査を行った。

【結果及び考察】

冬期の摘心栽培における暗期中断が開花日に及ぼす影響は、分枝の発生位置のいずれの分枝においても暗期中断区の開花日が約45日前進した。

また、採花本数に及ぼす影響は、暗期中断区の採花本数が2節分枝、1節分枝において増加し、総採花本数も株当たり0.93本増加した。しかし暗期中断区は外品率が高く、株当たり秀優品本数は自然日長区が0.17本多い結果となった (図1, 表1)。

定植日から開花日までの到花日数は、暗期中断区

ちじるしく短くなった。切り花品質は暗期中断区が開花時の節数が半分以下に減少し、草丈が低くなった。また、切花重、調整重、花穂長、茎径、小花数のいずれも暗期中断区で劣った (表1)。

以上の結果より、Ⅲ型ペンステモン咲きキンギョソウで定植直後から暗期中断を行うと開花日が大きく前進するものの、品質が劣った。今後は切り花の品質を向上させるため、暗期中断開始時期の検討を行う予定である。

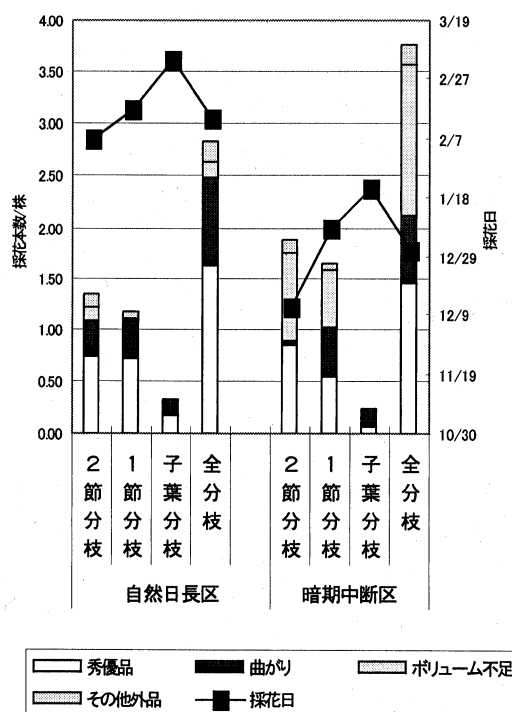


図1 暗期中断が採花本数/株及び採花日に及ぼす影響

表1 暗期中断が開花日、収量、切り花品質に及ぼす影響

	開花日 (月/日)	到花 ^x 日数 (日)	総採花 本数 (本/株)	上物 ^y 本数 (本/株)	切花長 (cm)	切花重 (g)	節数 (節)	花穂長 (cm)	茎径 (mm)	小花数 (個)	調整重 ^z (g)
自然日長	2/17	145	2.83	1.62	159	77	57	14.5	4.9	15.2	27.6
暗期中断	12/21	97	3.76	1.45	97	38	23	16.3	4.4	12.0	21.8

^x到花日数：定植日から開花日まで

^y上物：商品として販売可能なもの

^z調整重：切花長80cmに切り揃え、下葉を20cm欠いだ後の切花重